

-多自然型護岸の施工事例1-

工 事 名	平成3～4年度 オヤウンナイ川道単改修工事
施 工 場 所	北海道上川郡美瑛町
発 注 者	北海道旭川土木現業所
施 工 面 積	3 4 2 m ²
種 別	バイオ・オーガニック・リバー工法 SBR-100
備 考	既設コンクリートブロック面を緑化

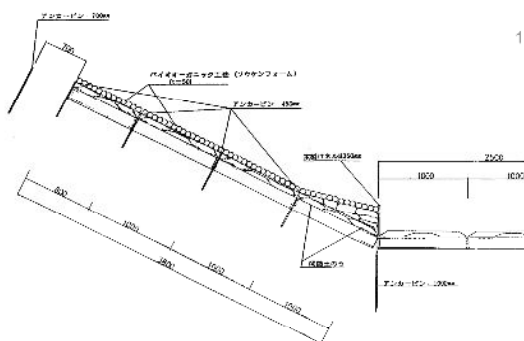
当施工事例は、既設大型コンクリートブロックが自然景観を損ねる為、周辺環境と調和した緑化が検討された。覆土工等も検討されたが、春先の融雪水による覆土の流亡が懸念され、植生基盤の耐浸食性に優れたバイオ・オーガニック・リバー工法が採用された。

水際には、間伐材を利用した木柵工を施し、自然らしさに配慮している。

施 工 前



断 面 図



基盤材注入完了



-多自然型護岸の施工事例1-

植生状況(施工後6ヶ月)



植生状況(施工後1年)



植生状況(施工後9年)



-多自然型護岸の施工事例2-

工 事 名	平成16年度 水無川河川改修その7工事
施 工 場 所	岩手県紫波郡矢巾町
発 注 者	矢巾町役場
施 工 面 積	279 m ²
種 別	バイオ・オーガニック・リバー工法 BR-70
備 考	勾配1:0.8 土質：普通土

フォーム布設状況



基盤材注入状況



植生状況



-多自然型護岸の施工事例3-

工 事 名	平成9年度 小規模河川改良工事
施 工 場 所	千葉県館山市
発 注 者	千葉県館山土木事務所
施 工 面 積	4 4 4 m ²
種 別	バイオ・オーガニック・リバー工法 BR-50
備 考	土質：砂質土

当施工事例は、館山市東部を流れる滝川の護岸対策工事である。動植物の生活圏となっている水際（河川が作り上げた自然な地形）を破壊する事無く、護岸機能（土砂流失防止）を発揮できる。バイオ・オーガニック・リバー工法が採用された。

連節ブロックに代表される護岸工事は、コンクリートブロックの安定を図る為に切土を行わなくてはならない。その為、施工箇所は、画一的な地形になり、景観性は基より動植物の生活圏も破壊する事になる。

バイオ・オーガニック・リバー工法は、フレキシブルに施工できる為、自然な地形を損ねる事無く工事を行う事ができる。

当施工では、1年目には裸地化してい水際が植生され、護岸機能（土砂の流失防止）と自然再生（動植物の生活圏の復元）が図られた。

施工1年後の植生状況



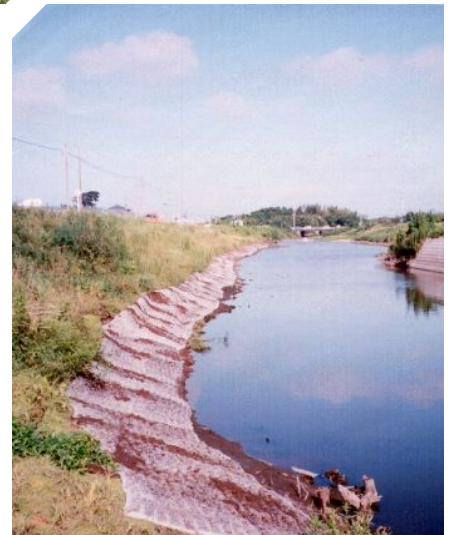
生育基盤材注入状況



施工箇所の地山の状況



施工完了



-多自然型護岸の施工事例4-

工 事 名	平成12年度 盛岡南部第20号工事
施 工 場 所	岩手県盛岡市
発 注 者	岩手県盛岡農村整備事務所
施 工 面 積	720 m ²
種 別	バイオ・オーガニック・リバー工法 BR-50
備 考	土質：普通土

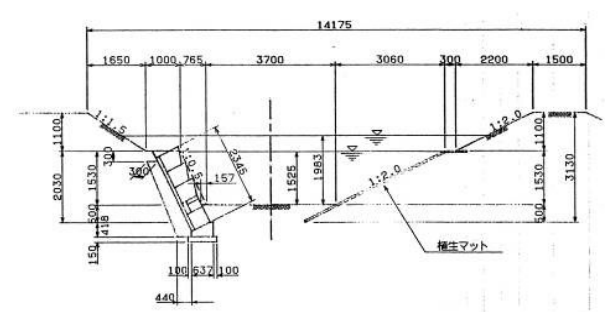
施工完了(平成12年2月)



植生状況(施工4ヵ月後)



断面図



植生状況(施工8ヵ月後)



当施工事例は、左岸をコンクリートブロックで護岸し、右岸をバイオ・オーガニック・リバー工法による多自然型護岸としている。河床下0.5mまでマットを埋設、河床洗掘防止材として敷砂利、水制工として大型の玉石をランダムに設置している。

冬季の施工であったが、翌年6月には植生率100%になり、植生復元が図られた。

-多自然型護岸の施工事例5-

工 事 名	平成6年度 大久保川道単砂防工事
施 工 場 所	北海道常呂郡留辺蕊町
発 注 者	網走土木現業所北見出張所
施 工 面 積	9 4 0 m ²
種 別	バイオ・オーガニック・リバー工法 BR-50
備 考	土質：礫質土（低水位河床部の緑化）

施 工 前



当施工事例は、親水護岸を目的に河川改修が計画された。河川敷地に隣接する児童公園は、町民のふれあい広場的要素が高く、その為、多自然型護岸が検討され、バイオ・オーガニック・リバー工法が採用された。

施工箇所は、魚道を除く低水位河床部で、降雨時には冠水する。バイオ・オーガニック・リバー工法は、植生基盤が安定している為、経年、植生遷移が進み、現在では、周辺植物の侵入が見られる様になっている。

施工完了



植生状況(施工3ヶ月)



植生状況(施工1年後)



-多自然型護岸の施工事例5-

植生状況(施工6年後)



植生状況(施工6年後)



植生状況(ガマの侵入)

